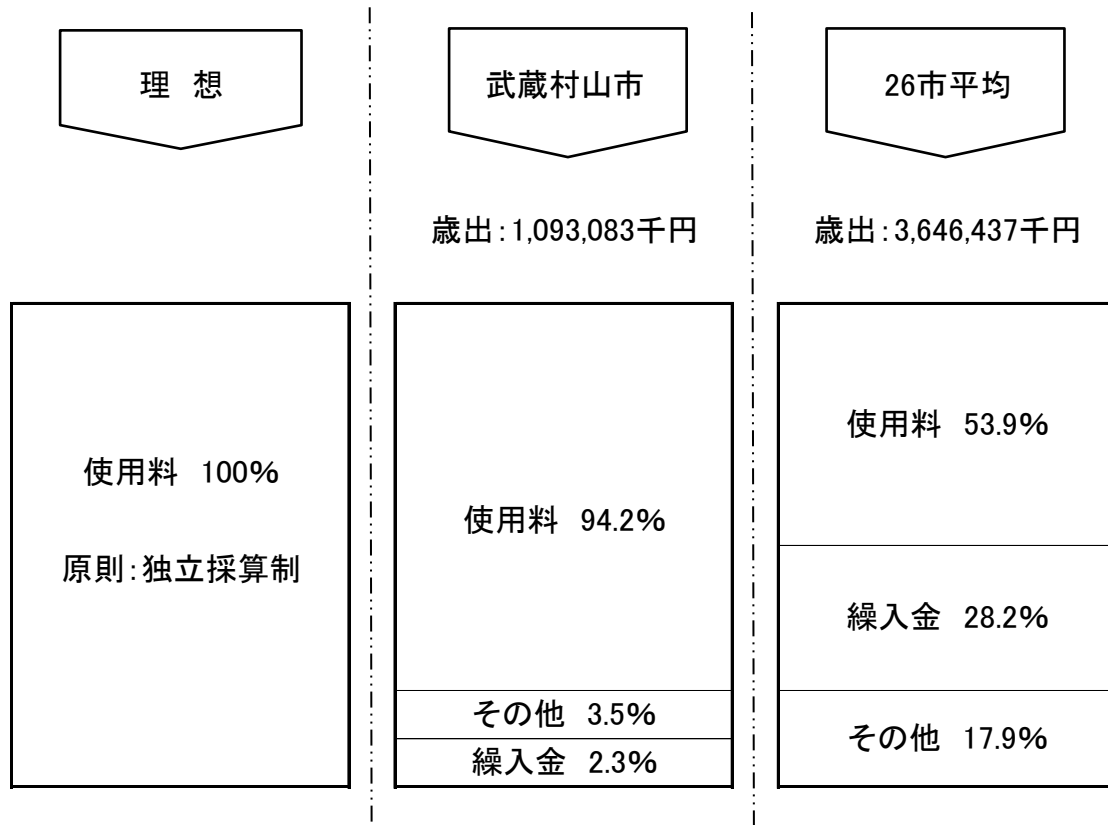


平成28年度 決算状況

下水道使用料、繰入金の歳出に占める割合

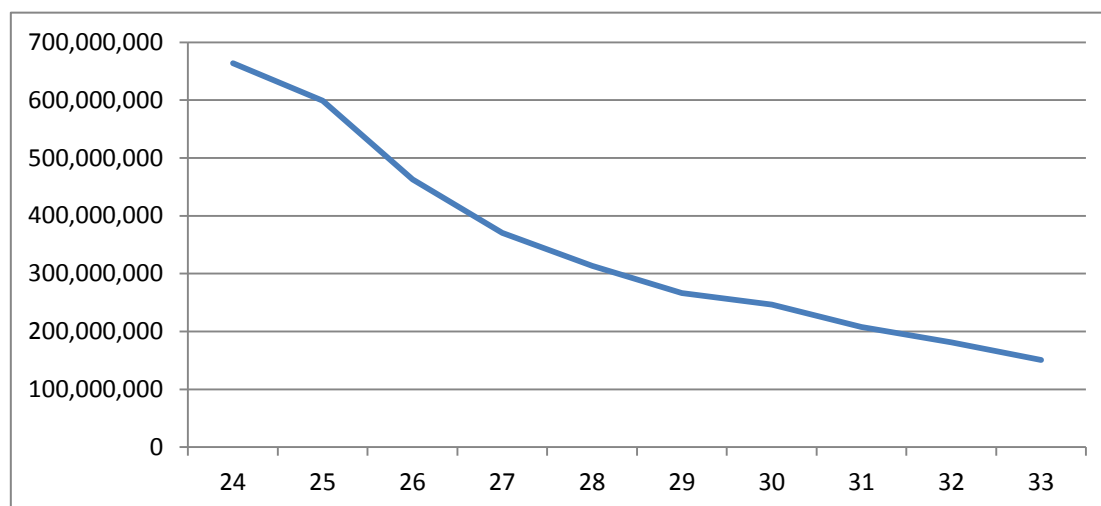


武蔵村山市の順位

項 目	順 位	備 考
歳入合計 1,218,651千円	25位/26市	多い順
歳出合計 1,093,083千円	26位/26市	多い順
下水道使用料 1,029,160千円	20位/26市	多い順
歳出に占める割合 94.2%	2位/26市	高い順
他会計繰入金 25,120千円	26位/26市	多い順
歳出に占める割合 2.3%	26位/26市	高い順
地方債残高 1,815,101千円	24位/26市	多い順

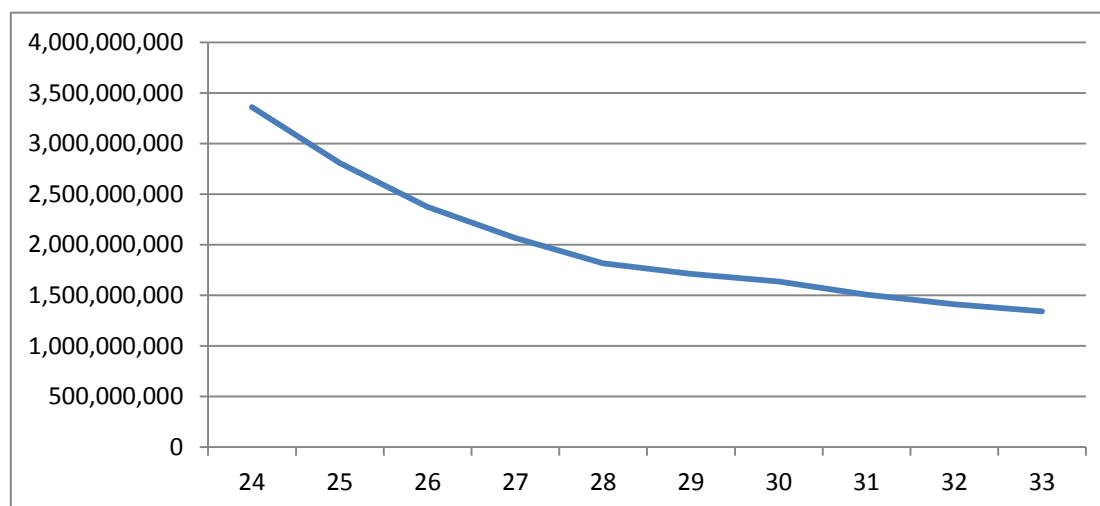
1 起債償還額(平成24～33年度)

年度	償還額(円)	対前年	
		増減額(円)	比率(%)
24	663,966,169	—	—
25	598,849,981	△ 65,116,188	△ 9.8
26	462,836,878	△ 136,013,103	△ 22.7
27	370,469,764	△ 92,367,114	△ 20.0
28	313,664,424	△ 56,805,340	△ 15.3
29	266,505,189	△ 47,159,235	△ 15.0
30	246,595,771	△ 19,909,418	△ 7.5
31	207,862,785	△ 38,732,986	△ 15.7
32	181,234,903	△ 26,627,882	△ 12.8
33	150,572,205	△ 30,662,698	△ 16.9

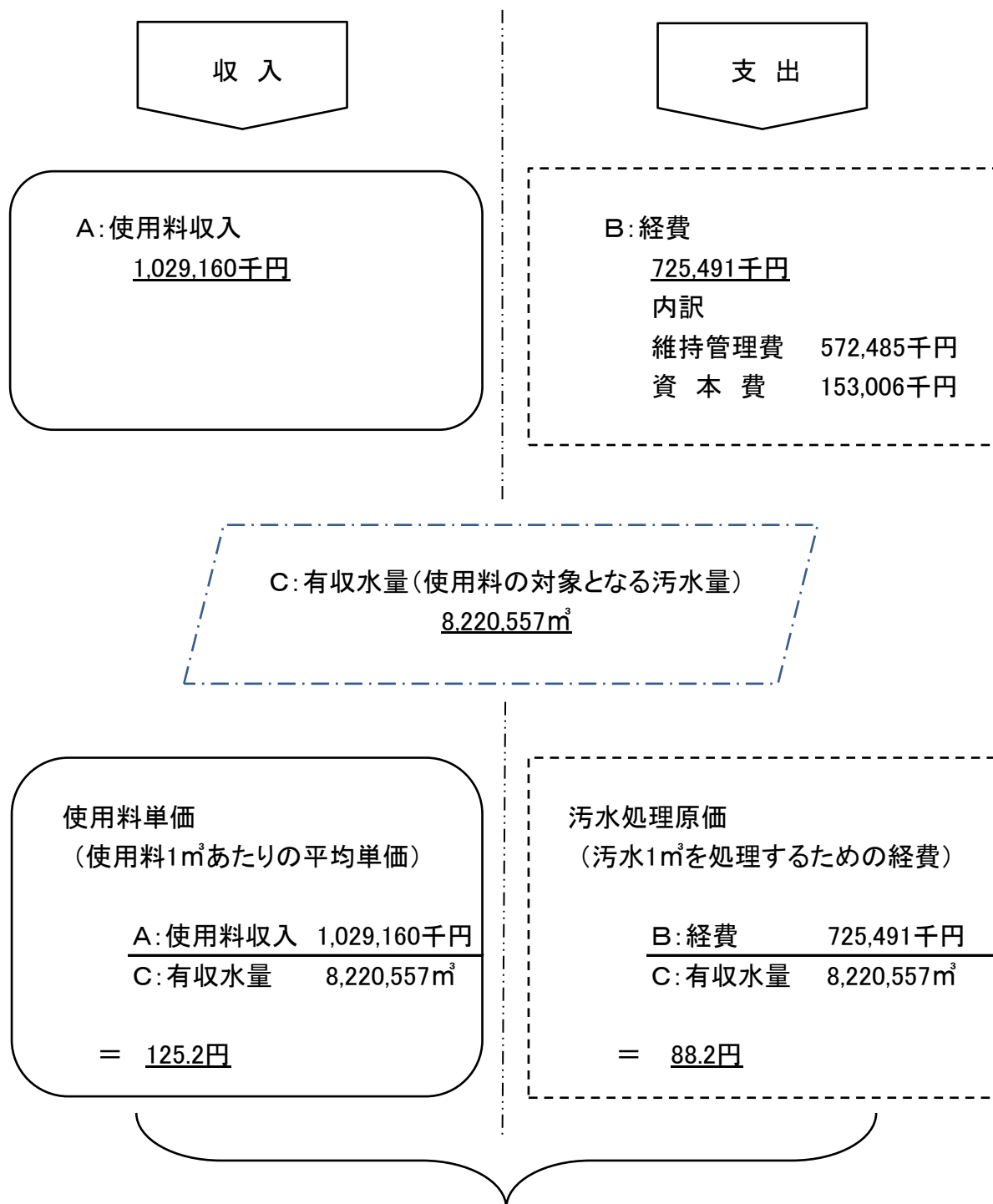


2 起債残高(平成24~33年度)

年度	起債残高(円)	対前年	
		増減額(円)	比率(%)
24	3,359,080,212	—	—
25	2,805,954,418	△ 553,125,794	△ 16.5
26	2,372,738,783	△ 433,215,635	△ 15.4
27	2,066,659,225	△ 306,079,558	△ 12.9
28	1,815,100,642	△ 251,558,583	△ 12.2
29	1,710,560,993	△ 104,539,649	△ 5.8
30	1,636,837,408	△ 73,723,585	△ 4.3
31	1,507,621,078	△ 129,216,330	△ 7.9
32	1,411,640,731	△ 95,980,347	△ 6.4
33	1,341,753,721	△ 69,887,010	△ 5.0



使用料対象経費及び経費回収率の算出方法



汚水処理費経費回収率

使用料単価 125.2円 ÷ 汚水処理原価 88.2円 = 142.0%

使用料単価 125.2円 - 汚水処理原価 88.2円 = 37.0円

※ 回収率が100%を超え、使用料で処理費を賄えている。

年度別汚水処理費回収状況

- 1 A: 汚水処理水量
平成16年以降、900万 m^3 から1千万 m^3
- 2 B: 年間有収水量
平成16年以降、800万 m^3 から900万 m^3 で処理水量より5～15%少ない。
- 3 有収率
汚水処理水量と同量が望ましい。100%に近い方がよい。
- 4 C: 下水道料金収入
平成18年以降、10億円以上の収入がある。
- 5 D: 料金単価
有収水量が多ければ、単価も低くなる。
- 6 汚水処理費
維持管理費は、下水道管の寿命が50年、古い管は40年以上経過しているため、今後増加する見込み。資本費は、償還金のため、年々減少していく。
- 7 処理原価
維持管理費は、平成11年以降5億5千万円前後である。資本費は、償還金のため、年々減少している。このため、資本費の減少傾向に比例して処理原価も年々減少している。
- 8 汚水処理費回収状況
維持管理費は、毎年増減が少なく大きな変化はない。
資本費は、償還が順調に進んでいるため、資本費の汚水処理費回収状況率は年々上昇している。

污水処理費回収状況(平成28年度)

	武蔵村山市	平均	平均との比較(%)
污水処理水量(m ³):A	9,117,970	18,262,748	49.93
年間有収水量(m ³):B	8,220,557	16,555,318	49.66
下水道料金収入(千円):C	1,029,160	1,964,293	52.39
維持管理費(千円):E	572,485	1,157,240	49.47
資本費(千円):F	153,006	767,603	19.93
污水処理費(千円):G=E+F	725,491	1,924,843	37.69
【処理原価】資本費(円):I=F/B	18.6	46.4	40.09
污水処理費回収状況(%)	142.0	102.1	

- 資料6を他市の状況と比較したもの。
- 污水処理費:A、年間有収水量:B、下水道料金収入:C、維持管理費:E
→ 平均との比較 ほぼ1/2。
☆維持管理費:Eは低額。地形的な理由から低額で污水処理が可能であるため。
- 資本費:F、合計:G
→ 平均との比較 1/2を大きく下回っている。
☆【処理原価】資本費:Iは減少。償還金の返済が順調で残高が減少しているため。
- 污水処理費回収状況
→数値が高い方が財政状況が良好。

回収率等項目別順位(平成28年度)

污水処理費回収率	4位	污水処理費を使用料で賄えている。
使用料単価	14位	地形的に維持管理費を低く抑えることが可能。
処理原価	17位	1位のおきる野市の半分程度の金額で処理できている。
建設事業開始年	21位	昭和49年に事業に着手し、平成4年までの約20年間の短期間で整備を進めた。

処理原価と使用料単価との比較(平成28年度)

資料8の処理原価と使用料単価をグラフ化したもの。